

## 日本自然災害学会創立 30 周年記念 オープンフォーラムで今村教授が登壇しました (2011/11/18)

11月18日(土)、東京大学生産技術研究所(東京都目黒区)にて、日本自然災害学会創立30周年記念 オープンフォーラム「東日本大震災からの教訓とこれからの防災研究の展望」が開催されました(主催:日本自然災害学会, 土木学会地震工学研究委員会, 共催:京都大学防災研究所, 東京大学生産技術研究所, 後援:防災研究協会, 協力:東京大学実行委員会)。今回のオープンフォーラムは、日本自然災害学会の学術講演会と土木学会の地震工学発表会が同じ会場で同時に開催されていたこともあり、土木学会の「第31回地震工学研究発表会 特別講演会」との共催でした。津波防災, 地盤防災, 原子力防災, 総合防災の専門家がそれぞれ1名ずつ登壇し、基調講演を行ったのちに、モデレータを含めた5名でパネルディスカッションが行われました。当センターの今村教授は、「東日本大震災での津波の被害像」と題して、今般の巨大津波をなぜ予測・評価できなかったのか、これまでに分かってきた津波そのものの姿、被害像についての講演を行いました。後半のパネルディスカッションでは、1) 東日本大震災の復旧・復興, 2) 首都直下地震への備え, 3) 東海・東南海・南海地震への備え, それぞれについて取り組むべき研究課題についての議論が行われました。



基調講演の様子



パネルディスカッション  
 (今村教授:左から2人目)